

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙	第	号
------	-----	---	---

氏 名 松 本 高 明

論 文 題 目

Postoperative DAV-IFN- β therapy
does not improve survival rates of
stageII and stageIII melanoma patients significantly

〔術後補助療法の DAV-IFN- β は悪性黒色腫 stageII と
stageIII の患者の生命予後を有意には改善しない〕

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委 員

安藤 雄一



名古屋大学教授

委 員

高橋 隆



名古屋大学教授

委 員

磯部 健一



名古屋大学教授

指導教授

秋山 真志



論文審査の結果の要旨

DAV- interferon (IFN)- β 療法は dacarbazine (DTIC)、nimustine (ACNU)、vincristine (VCR)に IFN- β の局所皮下注射を加えた多剤併用化学療法であり、日本においては悪性黒色腫の術後補助療法として広く用いられている。しかし DAV-IFN- β 療法の有効性が無作為化比較試験で確認されたことはなく、その効果が十分に証明されたとは言い難い。

本研究では当施設における DAV-IFN- β 療法の術後皮膚悪性黒色腫に対する生命予後改善への寄与を評価した。治療選択に関わる偏向を補正するため、propensity score を用いた。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 既に一般的になってはいるが、有効性が十分に証明されていなかった DAV- interferon (IFN)- β 療法に対して生命予後改善への寄与を評価した。
2. 治療選択に関わる偏向を補正しない解析では、StageIII において DAV- interferon (IFN)- β 療法群の疾患特異的 5 年生存率が未施行群に比較して有意に近く高かった。
3. Propensity score により StageII で 17 組、StageIII で 9 組のマッチングが成立し、マッチング後の解析ではどちらの病期にも、また無病 5 年生存率、疾患特異的 5 年生存率ともに DAV- interferon (IFN)- β 療法群と未施行群の間に明らかな有意差を認めることはできなかった。

本研究は DAV-IFN- β 療法に対する無作為化比較試験の必要性と、今後の皮膚悪性黒色腫に対する治療を選択するうえでの重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。